



東本郷

元気なあいさつ 明るい笑顔あふれる チーム東本郷小

学校だより

令和3年3月1日発行

川口市立東本郷小学校

バトンをつなぐ

校長 井上 千春

桃の節句を控え、少しずつ寒さも和らぎはじめ、早いもので本年度もあと1ヶ月となりました。

さて、先日新聞で素敵な記事を見つけました。

和歌山市の目が不自由な男性が、10年以上にわたり、地元の小学生に助けられながらバス通勤を続けました。ある女の子に声をかけられたことが始まりで、その子の卒業後も「やさしさのバトン」が繋がれたというものです。

和歌山市役所職員の山崎浩敬さんは、進行性の目の病気で目が見えにくくなり、40歳前に通勤で使っていたバイクを運転できなくなりました。訓練施設通いを経て2006年に復職し、08年から一人でバス通勤するようになりました。通勤を始めて1年がたった朝、バス停でバスを待っていると「バスが来ましたよ」と女の子の声がしました。「乗り口は右です。階段があります」と座席に案内してくれました。その子は、近くの学校に通う子で、降りるバス停も同じ。それ以来、毎日助けてくれました。その子は3年後に卒業しましたが、新学期には同じ学校の別の子が助けてくれました。山崎さんは、14年に目が見えなくなりましたが、子供たちのサポートは続き、何気ない会話が楽しみになったそうです。そして、8年もの間、4人の子供たちがサポートのバトンを引き継いでいったのです。山崎さんは、昨年、感謝の思いをつづり、「小さな助け合い」をテーマにした作文コンクールに応募し、最高賞に選ばれました。1月の寄贈式には、この8年間サポートした4人が出席しました。山崎さんは、「みんなの温かい手で支えてもらうのがうれしかった」と笑顔で話し、4人も「私たちも毎朝が楽しみになりました」と答えていました。

新型コロナウイルスの影響で、昨年春から山崎さんは時差出勤になり、子供たちの通学時間帯と合わなくなりました。山崎さんは、「目の病気で一時は仕事を辞めようと思ったこともあったが、子供たちのおかげで定年までがんばれそう。一日も早く、また一緒にバスに乗れる日が戻ってほしい」と話しています。
【令和3年2月10日読売新聞より抜粋】

いよいよ3月。東本郷小学校もそれぞれの学年のバトンをつないでいきます。先日、卒業を迎えた6年生に、在校生に伝えたいことを聞きました。その一部を紹介します。

今年は新型コロナウイルスの影響もあって行事もほとんどが中止になってしまいました。しかし、この影響があったからこそ、今まで行事ができるありがたさを感じることができたと思います。今までありがとうございました。進級してもがんばってください。

今年はイベントなどが少なかったけれど、とても楽しい1年でした。6年生が卒業しても、あいさつたくさんで、元気いっぱい東本郷小学校をよりよくしてってください。これからもがんばってください。

今年はいろいろな行事ができなくなってしまいました。が、来年度はきっと楽しいことばかりです。つらいことの先には、楽しいことが待っている！！私たちが卒業してもお元気で！

例年とは違う1年間を過ごした6年生。マイナスをプラスに変えようとするみなさんの姿に、私たちが支えられた1年間でした。在校生は、みなさんの大事なバトンをきっと引き継いでくれることでしょう。6年生のみなさん、ありがとう！！